

第6号様式（第14条関係）

平成26年 4月 9日

新宿区長 あて

法人名特定非営利活動法人日本カラーアートセラピー協会  
所在地東京都新宿区坂町25番地1  
(フリガナ) ハナガタ マキコ  
代表者氏名 理事長 花形 麻貴子 ㊟

## 協働推進基金助成金交付申請書

新宿区協働推進基金条例施行規則第14条の規定により、下記のとおり助成金の交付を申請します。

記

助成金申請額                      ¥                      470,000                      円

1 助成対象事業

事業名	心的支援事業～みんながみんなのサポーター～ 言葉を越えた心の架け橋 「カラーアート・メンタルサポーター養成講座」	
事業種別	既存事業	新規事業
申請する助成の種類	NPO活動資金助成	新事業立上げ助成
過去に本助成を受けた実績	助成年度（平成 24、25 年度） 事業名（心的支援事業～みんながみんなのサポーター～ 言葉を越えた心の架け橋 「カラーアート・メンタルサポーター養成講座」	
この事業に対し他の助成の有無 (申請中のものを含む。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	有の場合は助成団体及び助成額 団体名： 助成額： 円
事業実施地域及び会場	新宿区 ・四谷地域センター(集会室 4) ・新宿 NPO 協働推進センター (501 室) ・榎町地域センター(会議室 AB)	
スケジュール (実施期間等)	8 回開催 本講座 3 回、フォローアップ講座 3 回、勉強会 2 回 ※別添資料 1 スケジュール表	
区民ニーズの把握状況 (それは、どのように把握したかを含む。)	<p>平成 24 年度～平成 29 年度版の「新宿区健康づくり行動計画」に基づく「平成 22 年度新宿区健康づくり区民意識調査報告書」を参照すると、心の不調、つまり、うつや心身症に繋がる大きな要因の【ストレス】に関して、区民の 63.3%が日常感じているという高い数値となり、年齢別では 39 歳以下が 80.4%、40～64 歳で 70.3%と、若年層から働き盛り、家庭では子育て中から家族の介護等を背負う要の時期に、物理的、精神的問わず何らかのストレスを感じているということに継続して問題点を感じております。</p> <p>これは「心のセルフケア」をテーマとした当事業の平成 24 年度、25 年度の 2 年間の利用者層の統計で、30 代をトップに、次いで 50 代、60 代の参加者が多かったことでも把握できました。</p> <p>※別添資料 2 -①②「年齢集計」参照</p> <p>また、国では、平成 10 年から自殺者数が急増し、その後毎年 3 万人を超える状況が続いており、区でも同様の傾向にあります。警察庁統計（平成 22 年中における自殺の概要資料）によると、自殺者の自殺原因は、原因が明らかな中では健康問題が最も多く、そのうち「うつ病」が約 44%を占めています。</p> <p>併せて、区において心の不調により通院医療費申請をした人の内、うつ・躁うつ病者の割合は、平成 11 年度 21.8%、平成 20 年度で 36.3%、平成 21 年度 39.3%と年々増加しており、現在では約 4 割を</p>	

	<p>占めている現状にあり、継続した心の病に対する積極的な対処が必要です。</p> <p>また、これらの現状における課題として「ストレスをためない生活スタイルやストレス対処法などについて、幅広い層に情報提供が必要である」、「自分の心の不調に気づくことができるよう分かりやすい尺度を提示し、情報提供する必要がある」、「周囲の身近な人たちが当人のさまざまなサインを見逃さないようにする環境作り」、「地域の様々な場所に(気づき)や(声かけ)などに意識を持つ人が数多くいる体制をつくる必要」と報告されています。</p> <p>つまり日常生活におけるストレス状況の強さと、それをどのように受け止め、自ら悪化する前に事前に対処できるかということが、区民の二次的症状の発現に重要と考えられます。</p> <p>心身症を例にあげると、自己の「感情への気づき」や疲労感、食欲などの「身体感覚への気づき」に乏しい傾向があることでもわかるように、「心の不調」に早めに気づくためには、まず一人ひとりが日ごろから思考や行動面に対する意識ばかりでなく、自分の【感情】、【感覚】を敏感にキャッチできるような意識付けが最も必要となります。</p> <p>つまり、これが、心の不調、ひいては精神疾患、自殺に対する【第一次予防】となるといえます。</p> <p>風邪を引かないように、日頃から手洗い・うがいを徹底することと同じです。</p> <p>よって、心の不調が悪化して何らかのカウンセリングを受診する必要が生じた場合の第二次予防、第三次予防対策の前に、区民が現在最も必要としているのは【心の手洗い・うがい】対策、つまり、「セルフメンタルケア」の知識と方法の習得であり、身近な人へ活かせる技術だと考えます。</p> <p>また、本事業実施後、子育て世代に向けた「親と子の心を元気にするアートセラピー講座」(平成 25 年度実施)や区内の高齢者向けのカラーアートセラピーの実施依頼(西早稲田地域交流会館・平成 26 年度実施予定)等からみて、仕事と家庭生活、育児の両立のバランスで葛藤を抱える 30 代世代から、介護問題でのストレスを抱える 50 代世代、また心身の健康維持と他者に向けたサポートという意味でのボランティアや社会貢献参加に関心の高い 60 代以降の世代に必要性を把握できました。</p> <p>更に昨年度にお問い合わせ頂き日程の調整がつかなかった申込者より本年度の開催時期の問い合わせも現在も引き続き頂いており、本事業に関する意識、関心の高さを感じております。</p>
<p>事業の対象者</p>	<p>新宿区民 ストレスを感じている全般の方</p>

<p style="text-align: center;">活動内容</p> <p>※必要に応じて、図表、地図、イラスト、写真等を添付し、又は印刷物等の資料を提出していただいても結構です。</p>	<p>内容：「カラーアート・メンタルサポーター養成講座」</p> <p>◎時間 13:00～17:00 ◎定員 30～50名(会場による)</p> <p><b>【講座内容】</b> カラーセラピー(色彩心理療法)やアートセラピー(芸術療法)の基礎知識を学び、簡単な傾聴技法、手話も習得できる、「自分の心のセルフケア～相手のケアサポートへ」をテーマにした1日集中講座です。</p> <p><b>【本講座カリキュラム】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. カラーアート・メンタルサポーターとは <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンタルケアの必要性とメンタルサポーターの意義</li> <li>・ユニバーサルなメンタルケアって何？</li> <li>・カラーセラピー・アートセラピー・傾聴・手話の4つの方法を紹介</li> </ul> </li> <li>2. カラーアートセラピーの実践～スクィグル描画法</li> <li>3. カラーとアートに投影される自己心理分析 <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンボルやカラーでわかる心の状態と解説</li> </ul> </li> <li>4. 実践ロールプレイトレーニング <ul style="list-style-type: none"> <li>・傾聴(言語的カウンセリング)トレーニング</li> <li>・カラーアートセラピー(非言語的カウンセリング)トレーニング</li> </ul> </li> <li>5. ふりかえり</li> </ol> <p><b>【フォローアップ講座カリキュラム】</b> ※基本的に養成講座(本講座)を修了した方(24年度、25年度も含む)を対象とし実施</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. カラーアート・メンタルサポーター養成講座(本講座)の振り返り <ul style="list-style-type: none"> <li>・復習及び質疑応答</li> </ul> </li> <li>2. 別のカラーアートセラピーの実践～コラージュ療法 <b>※別添資料3参照</b></li> <li>3. カラーとアートに投影される自己心理分析 <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンボルやカラーでわかる心の状態と解説を本講座テキスト及び資料から進め、本講座の復習及び応用につなげる</li> </ul> </li> <li>4. 実践ロールプレイトレーニング <ul style="list-style-type: none"> <li>・傾聴(言語的カウンセリング)トレーニング</li> <li>・カラーアートセラピー(非言語的カウンセリング)トレーニング</li> </ul> </li> <li>5. ふりかえり</li> </ol> <p>○昨年度のフォローアップ講座の内容、進行に参加者の声を考慮して「コラージュ療法」の体験・実践も加えて実施する</p> <p><b>【色や絵を使った心のケアの勉強会】</b> ※カラーアート・メンタルサポーター養成講座修了生を対象とし、本講座での学びを、『子育て向け』『高齢者向け』にそれぞれしっか</p>
---	--

り活かし、更に実践に落とし込めるスキル向上の勉強会を 2 回実施  
(12月・3月予定)

◎時間 13:00～17:00

◎定員 30～50名(会場による)

**【講座内容】**

1. 講演

・それぞれ専門の分野でご活躍される講師による、カラーアートセラピーを使った心のケアの必要性や現場でのニーズ、活かし方についての講演

2. グループディスカッション

3. ペアによる実践ロールプレイトレーニング

- ・傾聴(言語的カウンセリング)トレーニング
- ・カラーアートセラピー(非言語的カウンセリング)トレーニング

4. ふりかえり

○専門分野の講師の方々は今新宿区内の子育てや高齢者施設の現場でご活躍されている方に打診中

○ディスカッションでは参加者同士が本講座での気づきや活かし方抱える問題等を話し合い発表して分かち合いを行う

○その気づきや課題を成長につなげられるよう、養成講座で作成した描画等を使った場面設定で実践ロールプレイ練習を行う

※本年度は前年度までの 2 年間で得たアンケート集計及び実施後の他団体等からの問い合わせから、

①スキグル描画法以外のカラーアートセラピーを導入した回を 3 回設け、本講座(3 回)との連続性と学びの復習(フォローアップ)の効果を目的に実施する。

②本事業 3 年目の集大成とし、この 2 年間での参加者層が多く今後もその分野での効果が見込まれる、『子育て向け』と『高齢者向け』の 2 分野に絞った「色や絵を使った心のケア」の勉強会を 2 回実施し、それぞれの専門分野の講師を招き、講演会及びワークショップ形式でのトレーニングを、それぞれの当事者や家族のみならず、対象者機関等での職業従事者も含めた、本事業の効果の橋渡しの構築

を目的に実施する。

**【特徴】**

●講座修了後に認定修了証を授与

※修了証認定は協会正会員登録を条件としない

●忙しい方、育児中の方にも最適、短期集中 1 日講座(フォローアップは別途)

●介護・福祉・教育・美容・サービス・相談業務に活かせる

●カラーセラピーやアートセラピーを通して自分の気持ちや感覚に気づき発散、ストレスケアの方法を体得

- 自己理解が深まることで他者理解を促進、コミュニケーションの向上
- 話を聴く力(傾聴)、話を表現する力(手話)も合わせて学習



【カラーアート・メンタルサポーター養成講座の現況】

●平成 23 年度から、当協会が自立的に開催している資格取得講座

●平成 26 年 3 月現在、約 500 名の方が受講修了

●(受講者の内訳)

カウンセラーや相談業務・エステ業や美容専門学校関係

保育士や学校の先生、介護・福祉施設関係の方

各企業の人事・教育部門の方、

ホテル・お客様対応・観光サービス業の方

医師・看護師、建築士の方

※『人』に向き合う業務の方が多い

●昨年度の助成事業として 6 回フォローアップ講座 2 回を開講、計 162 人の方にご受講いただきました。

●その他

育児に悩む母親層や自宅で介護に奮闘されている方、子育て支援施設や高齢者施設等で職務されている方などの増加

※自分のストレスケアや家族関係のコミュニケーションの向上のため、職場指導に活かすため受講する方が昨年度に引き続き多く見られその必要性を認知しました

●新宿区民対象本事業「カラーアート・メンタルサポーター養成講座」のねらい

①「自分の心のセルフケア」に焦点をあてたストレスマネジメント

②自分を知ると(自己理解)、コミュニケーションが変わる(他者理解)

③地域に密着した「身近な誰かのサポーター」の本来の意図を促進

④多種に渡り様々な方が混在する新宿区域にとって文化や言語、国籍、老若男女、能力、障がいの如何を問わず利用可能なユニバーサルなメンタルサポート、メンタルケアの必要性

⑤地域のコミュニケーションの活性化・多様化

●なぜカラーアートが有効？

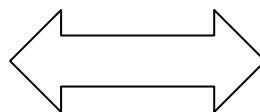
※言語に頼る難しい心理療法は障がい者や子ども、高齢者には不向きであり、ユニバーサルなメンタルケアの方法が重要

※「言語を超えてカラーとアートで気持ちを吐き出し自分を見つめることができる方法」＝カラーアートセラピー

⇒ 言葉ではうまく言い表せない心の奥底の気持ちや感覚を、色に喩えたり、自由なアートで表現したりすることで置き換えて、心理的負担なく表出しやすい、自分のできる【心の手洗い・うがい】の方法

障がい者

子ども・高齢者など



健常者

「共存するための隔てのないサポート」

視覚障がい者	(傾聴・アートセラピー《音楽療法》)
聴覚障がい者	(カラー・アートセラピー・手話・筆談)
肢体不自由者	(どれでも可)
子ども	(どれでも可・カラーアートセラピー有効)
高齢者	(どれでも可・傾聴・カラーアートセラピー)

●カリキュラム構成の重要性

1. セルフメンタルケアの知識や技術と自己理解
2. 資格取得の達成感と自信や自己表現力の向上を同時に得られるカリキュラム構成

◎重要性の根拠

※隣の誰かのサポートができるようになるという社会的欲求が満たされる付加価値は、更に自身のストレス耐久性を向上させるために大きな役割を担い、セルフメンタルケアの強化となる。

※自身の問題で悩む方にとって「メンタルケア」の講座より「サポーター」としての講座内容の方が敷居が低く、結果セルフケアとしての目的達成となる。

※子育ての孤立化や介護問題に対する意識も高まる現在、自分をケアでき、更に他者に貢献できるという自信は、区民一人ひとりの豊かな人間性と幸せに繋がる。

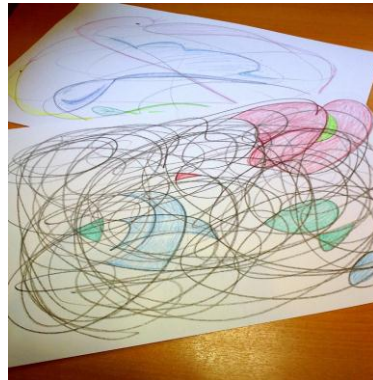
●地域に密着したサポーター育成事業

学びを活かしてセルフケアを行い、且つ、隣で苦しんでいる大切な誰かへの身近なサポート、ひいては、社会貢献となるよう知識やスキルを身につける活動

⇒「カラーアートメンタルサポーター」の育成事業







※講座テキスト別添資料 4

地域の人たちの事業  
へのかかわり方

(ボランティアとして参加する等、どのように地域の人がこの事業に参画することができるかを記入してください。)

●直接的な関わり

・メンタルサポーター受講後、サポーター・ファシリテーターとして講座にボランティア再参加することで自己理解を深め、25年度に引き続き他者への援助・貢献の後押しをする。  
また、今年度は、「色や絵を使った心のケアの勉強会」を子育て向け、高齢者向けと必要性の高い分野でのフォローアップ勉強会で、それぞれの当事者や家族、従事者が助成終了後も当団体の事業に参画できるような体制で上記を強化していく。

※25年度は、本講座での傾聴ファシリテーターとして、メンタルサポーター4名が本事業に参加された。

それにより新宿ふれあいフェスタや新宿 NPO 協働推進センターのセンターまつり等にも修了生が参加され、色や絵を使った心のケアの促進へとつながった。

●間接的な関わり

・受講者は地域に戻って身近な人のケアをすることそのものが、地域社会への還元であり、事業の目指すものへの参画となる。

実行体制

(必要とされる人員とその確保のめど、必要な設備等)

●講座業務

1回 4時間※途中 15分休憩含む

定員 30~50名 (会場により変動)

・講師 2名(内 1名講演・1名ファシリテーター)

・ヘルプ 2名 (ロールプレイ介入参加・準備・サポート)

・ボランティア 3名(手話表現のサポートや託児等必要な場合に対応)

※四谷地域センターはプレイルームがあり託児担当者(保育等経験者)のボランティアにて3名までの未就学時は託児可能

	<p>※本年度は会場に榎町地域センターを加え、集客増員と近隣の榎町子ども家庭支援センターの「ひろば型一時保育」の利用も可能となる。</p> <p>※新宿 NPO 協働推進センターではファミリーサポートスタッフ等の協力も検討中。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受付スタッフ 1名</li> <li>・会場スタッフ 1名</li> </ul> <p style="text-align: center;"><u>計9名体制にて実行</u></p> <p>※理事3名、スタッフ1名の4名でヘルプ及び受付、会場を担当すること</p> <p>●必要な設備 3人掛けの机10個～20、椅子30～50脚、ホワイトボード⇒必須 ※入口にポスター案内・視覚効果としてデモンストレーション机にカラーアートサンプルを掲示</p> <p>●事務局の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公示後の問い合わせに対する受付業務 ⇒通常の協会業務と兼任(スタッフ)</li> <li>・テキスト印刷・チラシ作成、印刷・必要品の入手・手配(理事1名)</li> <li>・講師選出、打ち合わせ・会議招集、実行・総括(代表理事)</li> <li>・スケジュール管理、会計業務・報告書作成・書記業務(理事)</li> </ul> <p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協会正会員の有資格者から講師を選出し、当日業務及びその他必要となる雑務等にも事前に協力を要請(講師費に全て含まれる)</li> </ul>
期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>●心の不調が深刻化する前段階での第一次予防、つまり事前に問題を回避できる【セルフケア】の方法を、身近にある「色」と「絵」というツールを利用して日常生活でも行えるようになる。</li> <li>●子どもから高齢者・障がい者まで、ユニバーサルなサポート施行が可能になる。</li> <li>●取得した資格・学びを自分のみならず、身近な他者に対して促進することで得られる達成感や自信、社会的充足感、ストレスに対する耐性につながり、更なるセルフケアの充実となること</li> <li>●地域特性として在勤者数、在学者数も多く、昔からの居住者や高齢者、ひとり親家庭、セクシャルマイノリティの方など、多種に渡り様々な方が混在するマンモス都市、新宿区域にとって文化や言語、国籍、老若男女、能力、障がいの如何を問わず、できるだけ多くの方が共通して利用可能なユニバーサルなメンタルサポート、メンタルケアの施行が可能となり、地域のコミュニケーション</li> </ul>

		<p>が活性化する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●3年目の今年度は今までのアンケート等での要望にこたえ、本講座以外でのカラーアートセラピーも体験できフォローアップとなる回を加えての実施により、色と絵を使った心のセルフケアをより楽しく自信を持って導入できるようになる。</li> <li>●子育て、高齢者向けの講演を含む集大成としての勉強会では、当事者および従事者の現場への橋渡しが徹底され新たなコミュニティを作ることもつながる。</li> </ul>
<p>申請事業を実施することによる貴団体の活動への効果</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●当団体の抱える現状課題 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 参加者の集客</li> <li>2. 地域を主体とした宣伝の強化</li> <li>3. マンパワー</li> <li>4. 団体活動のさらなる認知度向上</li> </ol> <p>※24年度、25年度助成事業実施の成果として上記課題点に向けおおむね向上できたことに感謝いたします。引き続き本年度を集大成として実施を申請させて頂くことで更なる向上をねらい、助成終了後に当団体が地域の協力のもと独立運営していくための基盤の強化を図ります。</p> </li> <li>●事業実施における効果 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域に密着し且つ区助成事業が達成すると、参加者の興味関心信頼を図ることに繋がる。また、受講後のインターン・ボランティアとしての再受講や活動参加により更なる参加者の増加に繋がる。</li> <li>2. 自立的な宣伝・マーケティングに加え、区からのサポートによる宣伝媒体を活かし、団体所在地である新宿区域への広範に繋がる。 また、カウンセラーよりもっと身近な、隣で寄り添える「カラーアート・メンタルサポーター」を、常に新しいコミュニケーション形態が生まれる新宿区から発信することで、更に全国へと広範していく啓蒙、パワー、モデリングとなる。</li> <li>3. 地域や区民に「カラーアート・メンタルサポーター」が広範することで、団体と共に活動する会員数の増加、講師、ファシリテーターの育成促進となり、より地域に密着した活動、貢献への人材育成に繋がる。</li> <li>4. 団体の存在認知度の向上は本事業を含む様々な活動の認知度の向上に繋がり、カラーとアートをツールとした心の架け橋、敷居の低い簡単に使える手話表現の広範など、協会としての理念の達成に向かい、その他心理カウンセリング事業などを含めた総括的な活動の活性化に繋がる。</li> </ol> <p>平成25年度報告書にも記載させて頂いたように、昨年度は他の地域からの親子アートセラピー実施の要請や区内の地域交流会館からの要請等へ広がり、本年度も合わせてこのような具体的な成果、効果が継続して考えられます。</p> </li> </ul>

貴団体の経営基盤強化  
に向けた取り組みと  
今後の展望

- その他の認定資格取得講座の開講による正会員の獲得
- ※本年度も継続して会員数の拡大に向け取り組みます。
- 聴覚障害者協会(日本聴覚障害者心理協会と現状では協力)やその他メンタルヘルス関連事業との協力提携による、メディア出演、雑誌掲載、イベント参加による活動の広範
- ※昨年度は6月と9月に新宿 NPO 協働推進センターの体育館(多目的室)にて、NHK 教育テレビ「みんなの手話」にレギュラー出演中の HANDSIGN を特別ゲスト・講師に迎えイベント、ワークショップを開催。アートセラピーとしての手話の広範に取り組みました。
- 新宿区及び都内また全国に及ぶ、社会的な団体認知度の向上による賛助会員の増加、寄付金の獲得
- ※助成終了後に「カラーアート・メンタルサポーター養成講座」そのものを全国に広範し、キャラバンとして一人でも多くの人が心の病を深刻化させ社会から孤立してしまう前の第一次予防政策として、「色と絵を使った誰でもできる心のケア」を広範していくことを推進中。昨年度から新宿区及び他地域の企業交流にも積極的に参加し協働のきっかけを調査、提案しています。
- 上記をふまえ「カラーアートセラピー」というメンタルヘルスツールそのものの広範と認知度の向上をチラシ、広告、WEB による宣伝(HP や SNS 等も積極的に利用)取り組んでいく。現在ボストン大学に留学中の宮城県職員から問い合わせ頂き、震災後のメンタルケアとしてアートセラピーの有効性について今後連携が取れないかを現在協議中。
- 引き続き、仮認定、認定 NPO 法人の取得に向けた社会貢献度・信頼度の高い、地域に密着した協会運営に向け取り組みたいと考えます。

## 2 助成対象事業費内訳（積算根拠）

※協働推進基金助成金は、助成申請額を入れて積算して下さい。

※入場料又は会費を徴収して行うイベント、公演等は、必ず単価を入れてください。

(G)

		経 費	積算根拠（内訳）	金 額
収 入		団体負担金		134,862 円
		参加費・資料代等	認定証代・資料代 500 円×150 名=75,000 （スタッフを除く収容適正人数の約8割を想定） 勉強会参加費 500 円×60 名 =30,000 （スタッフを除く収容適正人数の約8割を想定）	10,5000 円
		その他の収入		円
		協働推進基金助成金	助成希望額	470,000 円
		計		709,862 円
支 出 （ 助 成 の 対 象 に な る 事 業 費 の 内 訳 ）		費 目	予算額	内 訳
		会議費	16,350 円	◎講座 ・四谷地域センター 2,400 円×2 回=4,800 円 （集会室4：午前、午後1、午後2） ・新宿区立新宿 NPO 協働推進センター501 会議室 1,450 円×2=2,900 円 （501 会議室：午前、午後） ・榎町地域センター 2,400 円×2 回=4,800 円 （大会議室 AB：午前、午後1、午後2） ◎勉強会 ・四谷地域センター 2,400 円×1 回=2,400 円 （集会室4：午前、午後1、午後2） ・新宿区立新宿 NPO 協働推進センター501 会議室 1,450 円×1=1,450 円
		宣伝費	71,000 円	・周知用 A4 チラシ印刷 2 枚組 2000 部 1 枚目（表カラー23 円、裏白黒 4 円） （23+4）×2000 枚=54,000 円 2 枚目（表のみ白黒 4 円） 4 円×2,000 枚=8,000 円  ・ポスター中大(A2 印刷 3,000 円×3 枚=9,000 円)
	リース費	0 円		

消耗品費	14,742 円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周知用 A4 用紙 3,000 枚 1,788 円 (1 セット 500 枚単価 298 円×6 個)</li> <li>・修了証 A4 厚紙用紙 5,478 円(1 セット 10 枚単価 498 円×11 個)</li> <li>・テキスト作成 110 名分 (参加者、講師、スタッフ、予備分) (袋とじファイル 1 セット 10 枚単価 490 円×11 個=5,390 円)</li> <li>◎講座用資料として A4 用紙一人 16 枚×200 名 3,200 枚 1 セット 500 枚単価 298 円×7 個) =2,086 円 《内訳》 講座用(テキスト 9 枚+アンケート・説明資料 3 枚、コ ラージュ療法資料 3 枚) DM 送付用(送付状 1 枚)</li> </ul>
謝礼	396,000 円	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎講座 講師 1 名ファシリテーター1 名 25,000 円×2 人×6 日 間=300,000 円 ボランティア謝礼 3,000 円×3 人×6 回=54,000 円 (手話・託児のサポート)</li> <li>◎勉強会 修了者向けフォローアップ勉強会 講演講師 1 名 6,000 円×1h×2 回=12,000 円 ファシリテーター講師 1 名 5,000 円 (3h) ×3 名×2 回=30,000 円</li> </ul>
人件費	136,000 円	<ul style="list-style-type: none"> <li>1,000 円×4h×4 人×6 回 =96,000 円 (会場 1 名、受付 1 名、ヘルプ 2 名)</li> <li>1,000 円×4h×4 人×1 日=16,000 円 (事前打ち合わせ、準備、会議)</li> <li>1,000 円×4h×1 人×2 日=8,000 円 (資料等事前準備、確認)</li> <li>1,000 円×4h×2 人×2 日=16,000 円 (勉強会会場 1 名、受付 1 名)</li> </ul>
材料費	7,080 円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アート画材 4,980 円 (色鉛筆単価 498 円×10 個 ※消耗分を追加</li> <li>・画用紙 100 円×21=2,100 円 (10 枚 1 セット×21 個)</li> </ul>
交通費	12,000 円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師当日交通費 1,000 円×2 名×6 日間=12,000 円</li> </ul>

	その他諸経費	56,690 円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト(9 ページ綴り)印刷代 22,770 円 (カラー23 円×9 枚×110 名)</li> <li>・資料印刷代 5,600 円 (片面白黒 1 枚 4 円×7 枚×200 名)</li> <li>・修了証印刷代 440 円 (片面白黒 1 枚 4 円×110 名)</li> <li>・各団体企業、協会正会員、賛助会員等への周知用 DM 郵送代 82 円×340 名=27,880 円</li> </ul> <p>※団体関係:手話教室華乃樹(2)、日本聴覚障害者協会(2) 全国中途失調・難聴者協会(3)・日本グロースセンター (3)・人間関係心理学学会(1)・社団法人埼玉県聴覚障害者 協会(2)・東京都社団法人聴覚障害者連盟(2)・関東ろう連 盟(2)・日本カウンセリング普及協会(3)・ヒーリングオア シス(1)・ラファエルアートスタジオ(3)・社会福祉法人東 京聴覚障害者福祉事業協会(2)・東都生協(3)・NPO 法人 フリースクール全国ネットワーク(1)・フリースクールゆ うがく(2)・オボククリニック(2)・アートスタジオアンジュ (2)・絵画教室ビギナーアートスクール(2)・ヒューマンア カデミー渋谷校(3)・株式会社浅井企画(3)・株式会社サン セイ(1)・株式会社深雪スタジオ(3)</p> <p>協会正会員及び平成 24、25 年度講座参加者(280)、新宿 区 NPO 団体、社会福祉協議会等(12)</p>
助成対象事業費 (小計)	709,862 円		
助成対象外事業費	0 円		
<b>事業総額</b>	<b>709,862</b>	<b>円</b>	

3 その他

助成金申請額を減額して助成金の交付決定をした場合、助成対象事業の遂行は可能ですか。

( はい ・ いいえ )

**助成対象経費**

下記項目以外の経費（飲食費等）は、対象といたしません。

項目	経費の種類
①会議費	打合せ、会議資料コピー代、会場使用料等
②宣伝費	チラシ、ポスター等作成費
③リース費	事業に直接必要な機器の賃借料
④消耗品費	事務用品の購入費
⑤謝礼	講師、協力団体等への謝礼（1時間当たり1万円を限度とし、1日当たり3万円を限度とする。）
⑥人件費	事業実施に直接関る事業主体の人件費として時間単価1,000円、1日あたり1人4,000円を上限として、かつ助成対象事業費の20%以内
⑦材料費	事業に直接必要な材料の購入費
⑧交通費	公共交通機関の交通費、講師との事前打合せのための交通費等（タクシー代は除く。）
⑨その他諸経費	損害保険料、郵送料等（チャリティ募金、寄附金等は除く。）